

北杜市立小中学校 適正規模等についての答申 (骨子案)

北杜市立小中学校適正規模等審議会

1. 小中学校適正規模等の検討の概要	●
(1) 検討の背景と目的.....	●
(2) 審議会の経過.....	●
2. 北杜市の中学校を取り巻く状況	●
(1) 少子化の状況.....	●
(2) 現状の中学校教育の特色と課題.....	●
(3) 学校運営に必要な資源の状況.....	●
3. 考え得る選択肢	●
(1) 垂直統合案.....	●
(2) 水平統合案.....	●
(3) 組み合わせ案.....	●
4. 今後に向けて	●
資料編	●

1. 小中学校適正規模等の検討の概要

(1) 検討の背景と目的

北杜市立小学校及び中学校におけるより良い教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため、北杜市は市立小中学校の適正規模等のための検討を行ってきた。

北杜市は、平成21年3月の小中学校適正規模等審議会の答申に基づき、平成22年5月に「市立小中学校適正配置実施計画」を策定し、平成24年4月に須玉地区の増富小学校を須玉小学校に統合し、平成25年4月には長坂地区の日野春小学校、長坂小学校、秋田小学校、小泉小学校の4校を統合し、新たに長坂小学校が開校した。また、平成27年5月に「高根地区小学校統合計画」を策定し、平成31年4月に高根地区の高根東小学校、高根北小学校、高根清里小学校を統合し、新たに高根東小学校が開校した。北杜市は、小学校の統合については一段落したと市議会に説明した。

一方、中学校の統合については平成26年2月に「北杜市立中学校統合計画（案）」（4校案）を公表し、関係者との意見交換を進めてきたものの合意形成に至らず、平成29年1月には「4校案は難しい」という結果を市議会に説明した。

上記のような背景の中で、北杜市は**中学校の適正規模等の検討を改めて進めることを趣旨として、令和元年度に小中学校適正規模等審議会（以下、審議会）を再設置した。**

審議会では、**限られた資源を最大限に活用した本市の中学校の教育水準の維持・向上と、持続可能な学校運営の両立を目的として、**中学校の適正規模等の再検討を進めてきた。

本答申は、審議会名と整合をとるため「小中学校適正規模等の検討（以下略）」を名称としているが、上記の背景を踏まえ、次ページ以降の内容は「中学校適正規模等の検討」に関するものとしている。ただし、このことは後述する「小中一貫校」等の選択肢を否定するものではない。

(2) 審議会の経過

令和元年8月

- ・第1回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①経過報告
 - ②審議スケジュール等について

令和元年12月

- ・第2回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①地域説明会の資料について
 - ②地域説明会について

令和2年1月～2月

- ・地域説明会

令和2年7月

- ・第3回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①地域説明会の結果報告について
 - ②審議スケジュール等について

令和2年8月

- ・令和2年度第1回ワーキンググループ
 - ①ワークショップ資料の検討について

令和2年9月

- ・第4回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①第3回審議会のふりかえりと適正規模等の検討の方向性について
 - ②第1回ワークショップ資料について

令和2年10月～11月

- ・令和2年度第2回～5回ワーキンググループ
 - ①小中学校適正規模等の検討に係るワークショップの概要と検討の参考資料について
 - ②選択肢別のメリット・デメリットの整理について

令和2年12月

- ・第5回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①小中学校適正規模等の検討に係るワークショップの概要と検討の参考資料について
 - ②第1回ワークショップについて

令和3年3月

- ・第6回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①小中学校適正規模等の検討に係るワークショップの概要と検討の参考資料等について
 - ②令和3年度スケジュールについて

令和3年5月～6月

- ・小中学生へのヒアリング
- ・第1回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップ

令和3年7月

- ・先行事例学習会
- ・第7回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①第1回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について
 - ②小・中学生へのヒアリングの結果について
 - ③第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて

令和3年7月～11月

- ・令和3年度第1回～6回ワーキンググループ

令和3年11月

- ・第8回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①北杜市における学校適正配置に関するこれまでの経緯及び審議会におけるこれまでの議論と方向性について

- ②第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて
- ③ワークショップの日程等について

令和3年12月

- ・第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップ

令和4年1月

- ・第9回北杜市立小中学校適正規模等審議会
 - ①第2回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について
 - ②第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップについて
 - ③答申案の作成に向けた骨子(案)について

令和4年2月

- ・第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップ
- ・第10回北杜市立小中学校適正規模等審議会

令和4年3月

- ・第11回北杜市立小中学校適正規模等審議会

2. 北杜市の中学校を取り巻く状況

(1) 少子化の状況

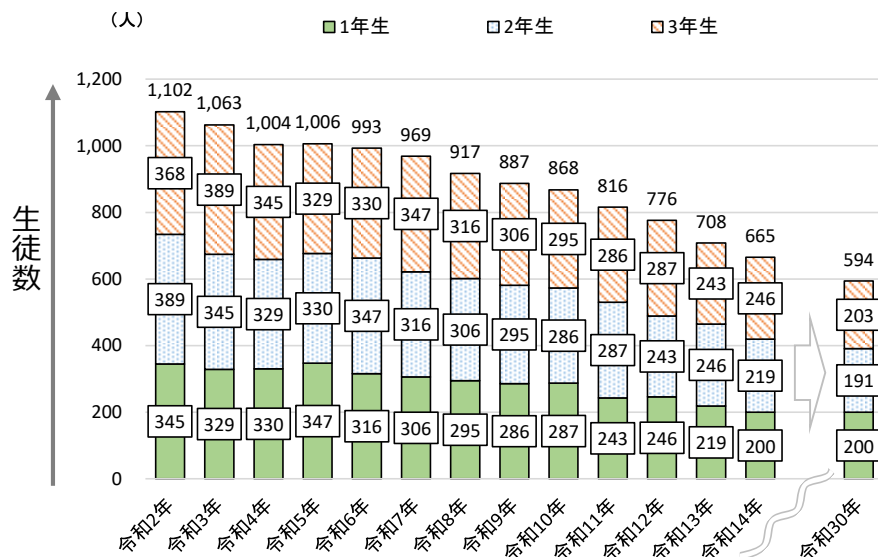
- ・少子化が進むことで、中学校の規模（生徒数・学級数）が変化している。
- ・将来を見据えて、あるべき教育環境を整えていく必要がある。

①-1 住民基本台帳から、社会増減（転出・転入）がなかった場合の将来の中学生の推計人数は下表のとおりです。

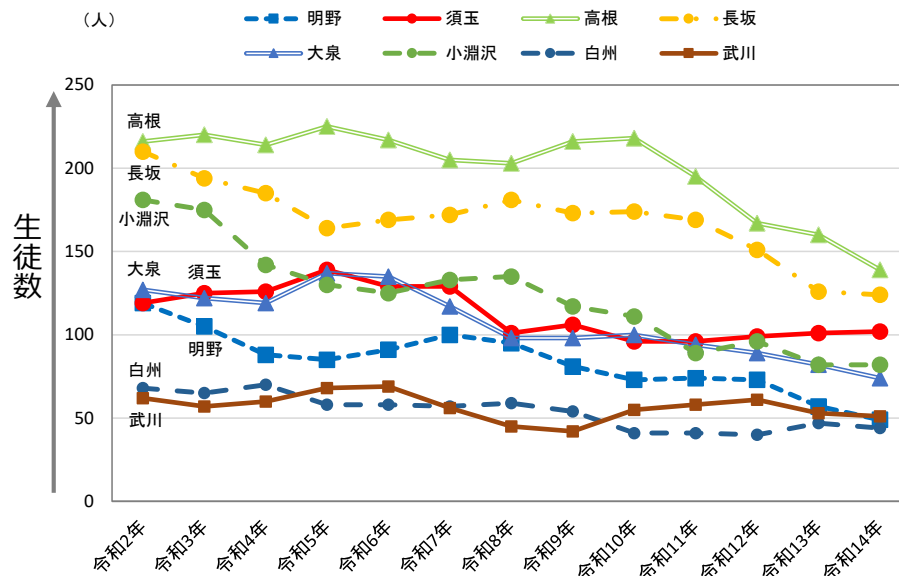
- ❑ 北杜市内（各地区合計）の将来推計をみると、中学生の人数は減少していくと推計される
- ❑ 令和14年時点の中学生の推計値は北杜市全体で665人となっており、令和2年の約6割の水準となる

- ❑ 地区別にみると、明野・高根・長坂・大泉・小淵沢地区の中学生の人数は減少傾向が大きい

図表 市内中学生の将来推計



図表 市内各地区における中学生の将来推計



※令和2年から令和14年の生徒数は、北杜市「R2.3住民基本台帳」より推計

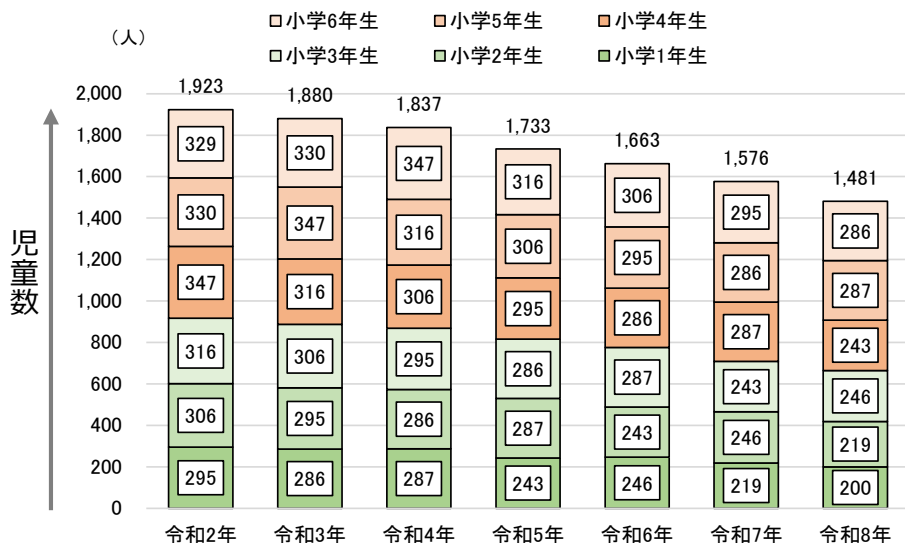
※令和30年の生徒数は、社人研の将来推計人口を基に算出した参考値

①-2 将来の小学生の推計人数は下表のとおりです。

- 北杜市内（各地区合計）の将来推計をみると、小学生の人数は減少していくと推計される
- 令和8年時点の小学生の推計値は北杜市全体で1,481人となっており、令和2年の約8割の水準となる

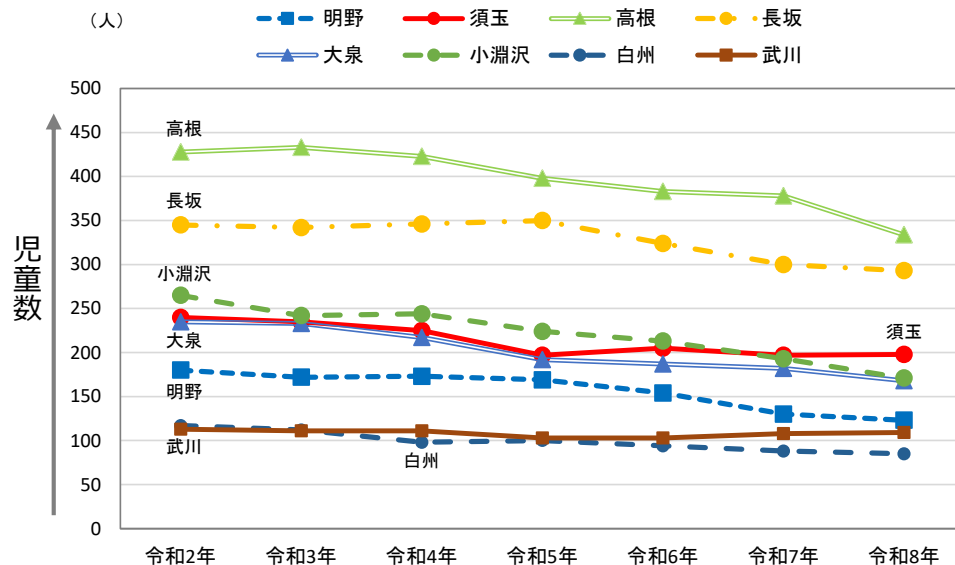
- 地区別にみると、中学生と同様に明野・高根・長坂・大泉・小淵沢地区の小学生の人数は減少傾向が大きい

図表 市内小学生の将来推計



※令和2年から令和8年の児童数は、北杜市「R2.3住民基本台帳」より推計

図表 市内各地区における小学生の将来推計



②現在のままで推移した場合の、将来の各中学校・小学校の生徒・児童数、学級数の推移は下表のとおりです。

- 12年後には、高根中、長坂中を除く6校で、1学年1学級となる
- 明野中、白州中、武川中では1学級が20人を下回る水準になる

図表 中学校における令和14年時点での生徒数・学級（特別支援学級除く） 編制予測

平成26年度

(単位:学級人)

		明野	須玉	高根	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	4	6	9	7	3	5	3	3	40
	生徒数	119	149	240	202	95	139	78	77	1,099
1年	学級数	1	2	3	2	1	2	1	1	13
	生徒数	39	53	73	63	31	47	27	27	360
2年	学級数	1	2	3	2	1	2	1	1	13
	生徒数	39	45	72	61	27	53	19	23	339
3年	学級数	2	2	3	3	1	1	1	1	14
	生徒数	41	51	95	78	37	39	32	27	400

令和2年度（現在）

(単位:学級人)

		明野	須玉	高根	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	3	4	6	6	4	6	3	3	35
	生徒数	107	112	200	179	117	169	64	55	1,003
1年	学級数	1	2	2	2	1	2	1	1	12
	生徒数	30	43	69	55	33	50	24	20	324
2年	学級数	1	1	2	2	2	2	1	1	12
	生徒数	39	37	66	62	44	65	19	14	346
3年	学級数	1	1	2	2	1	2	1	1	11
	生徒数	38	32	65	62	40	54	21	21	333

令和14年度

(単位:学級人)

		明野	須玉	高根	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	3	3	5	4	3	3	3	3	27
	生徒数	49	102	139	124	74	82	44	51	665
1年	学級数	1	1	1	2	1	1	1	1	9
	生徒数	18	28	33	49	21	22	11	18	200
2年	学級数	1	1	2	1	1	1	1	1	9
	生徒数	11	35	53	37	23	25	19	16	219
3年	学級数	1	1	2	1	1	1	1	1	9
	生徒数	20	39	53	38	30	35	14	17	246

図表 小学校における令和8年時点での児童数・学級（特別支援学級除く） 編制予測

平成26年度

(単位:学級人)

		明野	須玉	北高根・清里	高根西	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	9	9	18	6	12	10	11	6	6	105
	児童数	241	237	280	178	379	254	297	132	140	2,418
1年	学級数	1	2	3	1	2	1	1	1	1	16
	児童数	31	46	31	38	53	33	32	20	20	335
2年	学級数	2	1	3	1	2	2	2	1	1	18
	児童数	43	38	44	23	64	49	57	21	23	406
3年	学級数	2	1	3	1	2	2	2	1	1	18
	児童数	43	33	43	20	69	45	47	21	21	385
4年	学級数	1	1	3	1	2	2	2	1	1	17
	児童数	38	33	47	26	53	44	50	24	25	387
5年	学級数	2	2	3	1	2	1	2	1	1	18
	児童数	46	41	46	36	73	32	61	22	23	426
6年	学級数	1	2	3	1	2	2	2	1	1	18
	児童数	40	46	69	35	67	51	50	24	28	479

令和2年度（現在）

(単位:学級人)

		明野	須玉	高根東	高根西	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	6	9	9	6	12	8	10	6	6	72
	児童数	179	227	241	170	342	249	254	112	114	1,888
1年	学級数	1	1	2	1	2	1	2	1	1	12
	児童数	24	23	45	30	54	38	46	12	15	287
2年	学級数	1	2	1	1	2	1	2	1	1	12
	児童数	34	41	34	21	61	31	41	24	10	297
3年	学級数	1	1	1	1	2	1	2	1	1	11
	児童数	34	31	36	27	64	38	48	20	16	314
4年	学級数	1	2	2	1	2	2	2	1	1	13
	児童数	31	50	45	28	47	57	39	12	30	339
5年	学級数	1	2	1	1	2	2	1	1	1	12
	児童数	26	43	36	35	56	48	34	25	24	327
6年	学級数	1	1	2	1	2	1	2	1	1	12
	児童数	30	39	45	29	60	37	46	19	19	324

令和8年度

(単位:学級人)

		明野	須玉	高根	長坂	泉	小淵沢	白州	武川	合計
総数	学級数	6	6	12	10	6	6	6	6	58
	児童数	123	198	334	293	168	171	85	109	1,481
1年	学級数	1	1	1	2	1	1	1	1	9
	児童数	18	28	33	49	21	22	11	18	200
2年	学級数	1	1	2	1	1	1	1	1	9
	児童数	11	35	53	37	23	25	19	16	219
3年	学級数	1	1	2	1	1	1	1	1	9
	児童数	20	39	53	38	30	35	14	17	246
4年	学級数	1	1	2	2	1	1	1	1	10
	児童数	26	27	54	51	29	22	14	20	243
5年	学級数	1	1	2	2	1	1	1	1	10
	児童数	27	33	60	62	30	39	12	24	287
6年	学級数	1	1	3	2	1	1	1	1	11
	児童数	21	36	81	56	35	28	15	14	286

※平成26年度及び令和2年度の児童生徒・学級数は、学校基本調査による数値
 ※令和8年度及び令和14年度の児童生徒・学級数は、令和2年3月の住民基本台帳による推計の数値

※平成26年度は高根東と高根北、高根清里の3校をまとめて表記している
 ※令和8年度の高根は、推計の便宜上、高根東と高根西の2校をまとめて表記している

(2) 現状の中学校教育の特色と課題

①「令和の日本型学校教育」の構築に向け、国レベルで言及されている課題

- ・『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』に、以下の課題が言及されている(義務教育の9年間に関連するものを抜粋)

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)【概要】

第I部 総論

令和3年1月26日
中央教育審議会

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施

ICTの活用

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

今日の学校教育が直面している課題

- 子供たちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
- 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

②北杜市の中学校教育の現場の視点

市内中学校へのヒアリング調査により、市内の教育現場が感じている特色と課題を把握した

令和元年度 市内中学校へのヒアリング調査より



教員から聞かれた意見

市立中学校の特色	市立中学校で発生している課題
<p>①教員と生徒との距離が近い ・生徒一人ひとりに目が行き届きやすい</p> <p>②安定した人間関係で学校生活を送りやすい ・市内の多くの中学校では、小学校やそれ以前からの集団での学校生活となっている</p> <p>③地域とのつながりが強い ・地域とのつながりは、学校の規模にかかわらず重要であると考えられる</p> <p>④その他 ・生徒一人ひとりが活躍できる機会がある ・現状の教育環境（施設等）を存分に活用できる</p>	<p>①教科担任が1人になってしまう ・5教科（国語、数学、理科、社会、英語）の指導についても、本来は複数教科担任が望ましいが、教科担任が1人になってしまう</p> <p>②部活動でチームが編成できない ・部活動のなかでも団体競技において、十分な種目が設置されていない</p> <p>③1学年1クラスだが、1クラスあたりの生徒数は多い ・1クラスが定員の40人にせまる学校がみられる</p> <p>④多様な人との人間関係がはぐくまれにくい ・1学年1クラスとなっている学校では、小学校から9年間を同じクラスで過ごしている</p> <p>⑤兼務・非常勤の教員に頼らざるを得ない ・音楽や美術などの技能教科担当の教員は複数校を兼務していたり、非常勤として特定の曜日だけ出勤となっている</p> <p>⑥校務分掌の負担が大きい ・1校あたりの規模が小さく、教員数が少ない学校では、教員1人あたりが担当する校務分掌が多くなる</p> <p>⑦その他 ・PTA役員も保護者の負担を考慮した組織改編が必要となっている</p>

(3) 学校運営に必要な資源の状況

●市の事業範囲

- ・中学校の教員数は、国・県が示す学級編成の基準に基づき決められている。この基準によって配置された教員の人件費は、県が負担している。北杜市は各学校の実情を踏まえて、独自に教員の配置を行い、その分の人件費を負担している。
- ・他にも、各教科の備品・図書等の購入と修繕、部活動の支援、スクールバスの運行等を行い、学校運営を支えている。

図表 北杜市の主な中学校関連事業の内容

項目	内容
教職員の配置	令和2年度は9人の補助教員を配置している。 内訳は、少人数指導6名、特別支援学級3名（うち英語兼任1名、国語兼任1名）。 補助教員以外にも、司書・業務員を各校1名ずつ配置している。
各教科の備品・図書等の購入と修繕	各教科（理科・社会・体育・音楽・美術・技術・家庭課等）の教材・設備、図書、生徒用の机・イス等を購入・修繕している。
部活動の支援	備品・ユニフォーム等の購入、大会・合同練習等への移動手段の確保、外部指導者への謝金支払等をしている。
スクールバスの運行	須玉中、高根中、長坂中、泉中においてスクールバスを運行している。
その他	行事（学園祭、卒業式等）・課外活動（修学旅行、宿泊学習等）の実施、施設の維持・管理、英検の補助、各種負担金（峡北教育研究協議会、進路指導連絡協議会、小中体育連盟等）の支払等をしている。

①ヒト（教員配置）

県費の教諭は、学級数で配当数が決まっている。市費教諭の配置は、市独自の判断による。

図表 各中学校の教科担任教諭の配置状況（令和2年、県費・市費別）

		教科担任教諭											生徒数	普通学級数	特別支援学級数	備考欄	
		国語	数学	社会	理科	英語	保健体育	音楽	美術	技術	家庭	合計					
明野中	県費	常勤	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0				8.0	107	3	2	
		非常勤	0.5	0.5						0.5	0.5	0.5	2.5				
	市費	0.5										0.5					
	計	2.0	1.5	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	11.0					
須玉中	県費	常勤	1.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0				9.0	112	4	2	
		非常勤								0.5	0.5	0.5	1.5				
	市費			1.0		1.0						2.0					
	計	1.0	2.0	2.0	1.0	3.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	12.5					
高根中	県費	常勤	2.0	2.0	2.0	1.5	2.0	2.0		1.0		0.5	13.0	200	6	2	2名の教諭が複数教科を指導している(①家庭・数学、②理科・数学)、技術は無免許
		非常勤				0.5			0.5			0.5	1.5				
	市費		0.5			0.5						1.0					
	計	2.0	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0	0.5	1.0	0.0	1.0	15.5					
長坂中	県費	常勤	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0		1.0	0.5		14.0	179	6	2	1名の教諭が複数教科を指導している(①技術・数学)
		非常勤							0.5				0.5				
	市費										1.0	1.0					
	計	3.0	1.5	2.0	2.0	2.0	2.0	0.5	1.0	0.5	1.0	15.5					
泉中	県費	常勤	1.0	2.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0				9.0	117	4	2	
		非常勤				0.5	0.5			0.5	0.5	0.5	2.5				
	市費											0.0					
	計	1.0	2.0	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	11.5					
小淵沢中	県費	常勤	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	13.0	169	6	2	2名の教諭が複数教科を指導している(①技術・美術、②音楽・家庭)
		非常勤					1.0						0.0				
	市費											1.0					
	計	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	14.0					
白州中	県費	常勤	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				7.0	64	3	1	
		非常勤								0.5	0.5	0.5	1.5				
	市費								0.5			0.5					
	計	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	9.0					
武川中	県費	常勤	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0				7.0	55	3	1	
		非常勤								0.5	0.5	0.5	1.5				
	市費	0.5										0.5					
	計	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	9.0					
総計	県費	常勤	12.0	12.5	11.0	10.5	14.0	10.0	5.5	2.5	1.0	1.0	80.0	1,003	35	14	
		非常勤	0.5	0.5	0.0	1.0	0.5	0.0	1.0	2.5	2.5	3.0	11.5				
	市費	1.0	0.5	1.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.5	0.0	1.0	6.5					
	計	13.5	13.5	12.0	11.5	17.0	10.0	6.5	5.5	3.5	5.0	98.0					

参考 基本となる配当数

学級数	配当数
1	2
2	5
3	7
4	8
5	9
6	10
7	12
8	14

常勤……1.0
 週5日間1日勤務
 非常勤……0.5
 週5日間半日勤務
 または特定曜日のみ

1教科あたり
 教諭数
 最大値
 ↓グラデーション
 最小値

②モノ（校舎）

「北杜市小・中学校施設中長期保全化計画」では、予防保全的な施設の更新手法を導入していくことで、校舎の長寿命化を図り、80年間使用することを目標とする方針が示されている。

図表 中学校における主要な校舎の築年数

施設名(施設)	主要な校舎		築年数		備考
	建築年		令和2年	令和14年	
明野中学校	2005	H17	15	27	
須玉中学校	1970	S45	50	62	H14に大規模改修を実施
高根中学校	1988	S63	32	44	
長坂中学校	2004	H16	16	28	
泉中学校	1978	S53	42	54	H14に耐震化・大規模改修を実施
小淵沢中学校	2007	H19	13	25	
白州中学校	1979	S54	41	53	H13に耐震化・大規模改修を実施
武川中学校	1979	S54	41	53	H12に耐震化・大規模改修を実施

: 長寿命化改修または改築が必要な校舎
出典：北杜市「中学校施設中長期保全化計画」

図表 小学校における主要な校舎の築年数

施設名(施設)	主要な校舎		築年数		備考
	建築年		令和2年	令和14年	
明野小学校	1974	S49	46	58	H11に耐震化・大規模改修を実施
須玉小学校	1984	S59	36	48	H28に大規模改修を実施
高根東小学校	1979	S54	41	53	H30に大規模改修を実施
高根西小学校	1980	S55	40	52	
長坂小学校	2012	H24	8	20	
泉小学校	1974	S49	46	58	H12に耐震化・大規模改修を実施
小淵沢小学校	1974	S49	46	58	H16に耐震化・大規模改修を実施
白州小学校	1961	S36	59	71	H15に耐震化・大規模改修を実施
武川小学校	1974	S49	46	58	H7～18に耐震化・大規模改修を実施

: 長寿命化改修または改築が必要な校舎
出典：北杜市「小学校施設中長期保全化計画」

- 多くの校舎が老朽化している
※長寿命化を図りながら、80年程度使うのが基本的な考え方
- 「北杜市小・中学校施設中長期保全化計画」では、40年を目処に長寿命化のための改修を行うものとしている
- 中長期保全化計画において、直近10年の間に長寿命化のための改修または改築が必要と判断している
中学校：8校中5校
小学校：9校中4校

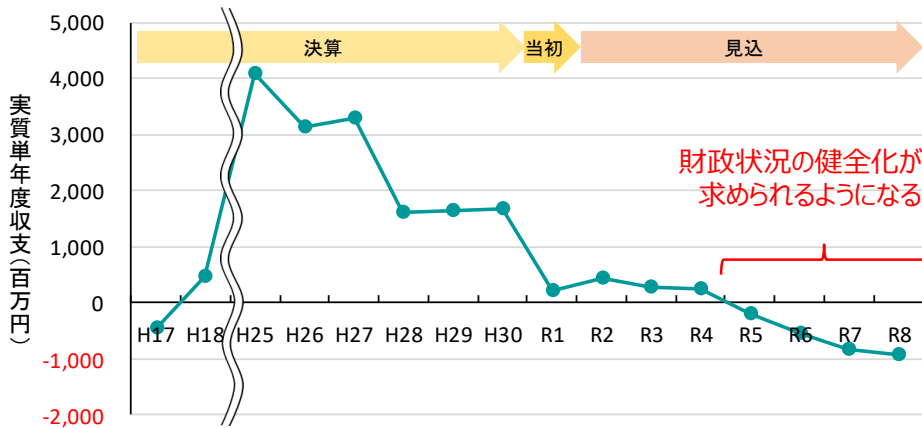
③カネ（教育費）

1) 市の財政状況

- ・第5次北杜市行財政改革大綱において、普通会計の中・長期財政見通しが示されている。北杜市の実質単年度収支は、現状並みの支出を続けると、令和5年度から赤字に転じていくことが想定されている。
- ・実質単年度収支を±0にするためには、令和8年度時点で歳出を3.3%削減する必要がある。

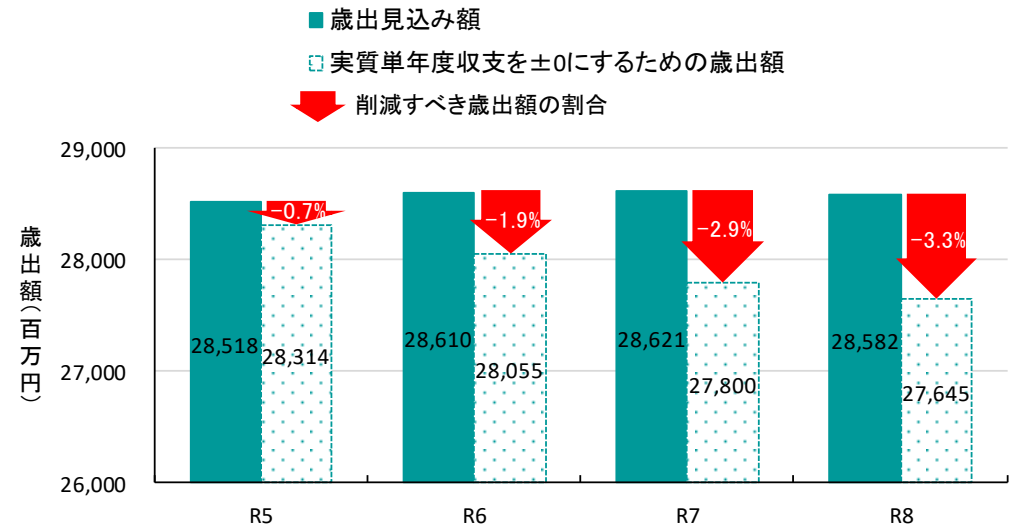
図表 実質単年度収支の推移と見通し

合併特例事業債の発行期限終了などの影響が大きく顕在化してくる令和5年度以降は、実質単年度収支がマイナスになるなど、財政状況が大幅に悪化する見込みとなっている。



実質単年度収支・・・基金等を取り崩したり、貯金をせずに、その年度に発生した収入から支出を差し引いたもの
その年度の財政的な余裕額を表している
北杜市 第5次行財政改革大綱 より

図表 実質単年度収支を±0にするための歳出削減割 (市全体)

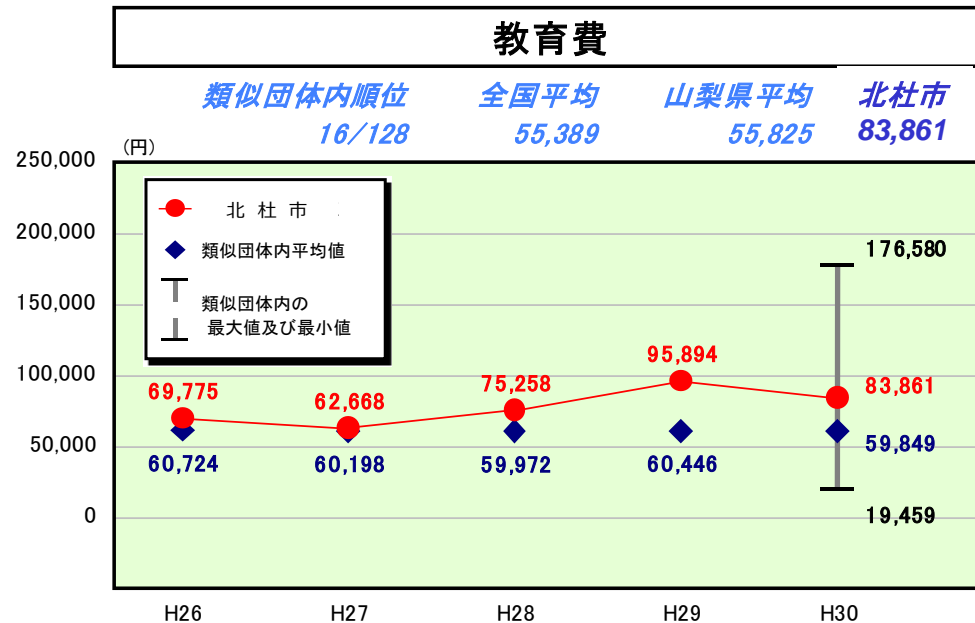


北杜市 第5次行財政改革大綱 を基に作成

2) 教育費の状況

- ・北杜市は財政状況資料集を公開している。この中で、住民1人あたりのコストが目的別に分析されている。北杜市の教育費は全国平均と比べて約1.5倍となっており、類似団体と比較しても上位となっている。

図表 住民1人あたりのコスト

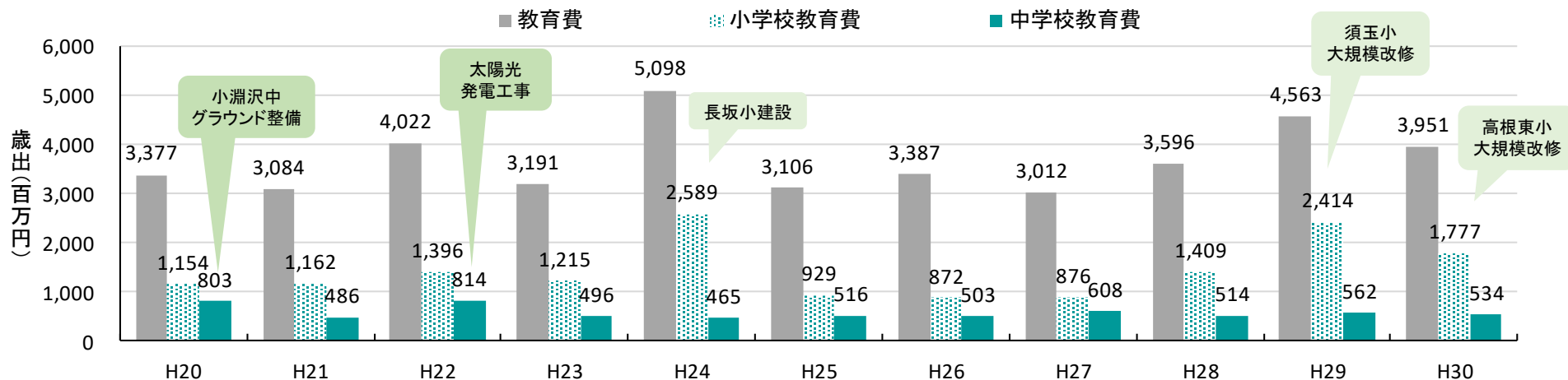


北杜市財政状況資料集（平成30年度）より

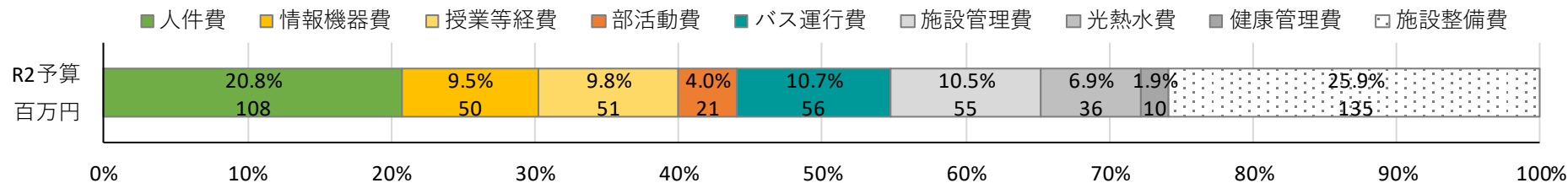
※類似団体のうち県内の自治体は、山梨市、韮崎市、甲州市となっている

- ・平成20～30年の北杜市の教育費は年間約30～50億円を推移している。
- ・平成20、22年の中学校教育費は、それぞれ小淵沢中グラウンド整備、太陽光発電工事が実施された影響で歳出が大きくなっている。それ以外の年は、約4～5億円を推移している。
- ・中学校教育費の内訳をみると、施設整備費（25.9%）の割合が大きい。
以下、人件費は20.8%、情報機器費・授業等経費は19.3%、部活動は4.0%、バス運行費は10.7%、となっている。

図表 教育費・小学校教育費・中学校教育費の推移（決算）



図表 中学校教育費の内訳（R2当初予算）



3. 考え得る選択肢

- ・文部科学省におかれている審議会である「中央教育審議会」では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿について審議が行われ、
- ・『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』に、人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方に関する中央教育審議会の考え方が記載されている

8. 人口動態等を踏まえた学校運営や学校施設の在り方について

(1) 基本的な考え方

- 少子高齢化や人口減少等により子供たちを取り巻く状況が変化しても、持続的で魅力ある学校教育が実施できるよう、学校配置や施設の維持管理、学校間の連携の在り方について検討が必要

(2) 児童生徒の減少による学校規模の小規模化を踏まえた学校運営

① 公立小中学校等の適正規模・適正配置等について

- ・ 教育関係部局と首長部局との分野横断的な検討体制のもと、新たな分野横断的実行計画の策定等により教育環境の向上とコスト最適化
- ・ 義務教育学校化を含む地方公共団体内での統合、分校の活用、近隣の地方公共団体との組合立学校の設置等による学校・学級規模の確保
- ・ 少人数を生かしたきめ細かな指導の充実、ICTを活用した遠隔合同授業等による小規模校のメリット最大化・デメリット最小化

② 義務教育学校制度の活用等による小中一貫教育の推進

- ・ 小中一貫教育の優良事例の発掘、横展開

③ 中山間地域や離島などに立地する学校における教育資源の活用・共有

- ・ 中山間地域や離島等の高校を含めたネットワークを構築し、ICTも活用してそれぞれが強みを有する科目の選択的履修を可能とし、小規模校単独ではなし得ない教育活動を実施

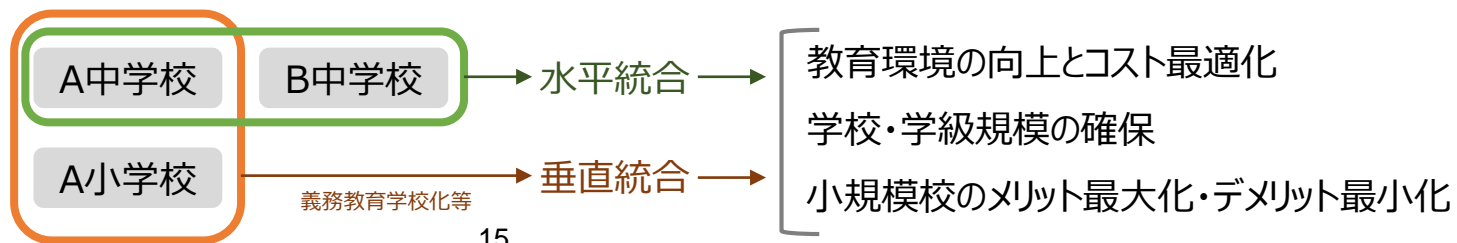
(3) 地域の実態に応じた公的ストックの最適化の観点からの施設整備の促進

- 子供たちの多様なニーズに応じた施設機能の高機能化・多機能化、防災機能強化
- 地域の実態に応じ、小中一貫教育の導入や学校施設の適正規模・適正配置の推進、長寿命化改良、他の公共施設との複合化・共用化など、個別施設計画に基づく計画的・効率的な施設整備

12

中央教育審議会初等中等教育分科会の資料から抜粋

- ・ここには、中学校と中学校の統合（以下、水平統合）と、中学校と小学校の統合（以下、垂直統合）が言及されている



考え得る選択肢を大きく分類すると、以下の3つとなる

- (1) 小学校・中学校の垂直統合**
- (2) 中学校のみの水平統合（2～1校程度）**
- (3) 垂直統合と水平統合との組み合わせ**

※現状維持

現状よりも教育水準を向上させ、かつ、持続可能な学校運営ができる選択肢があり、財政的にも持続可能ではない。

※水平統合（4～3校）

統合しても、新たな人間関係の形成や部活動等、その効果は一時的であり、現状よりも教育水準を向上させるという視点において、他の選択肢の方が明らかに優位である。

(1) 垂直統合案

教育環境の向上
の方向性

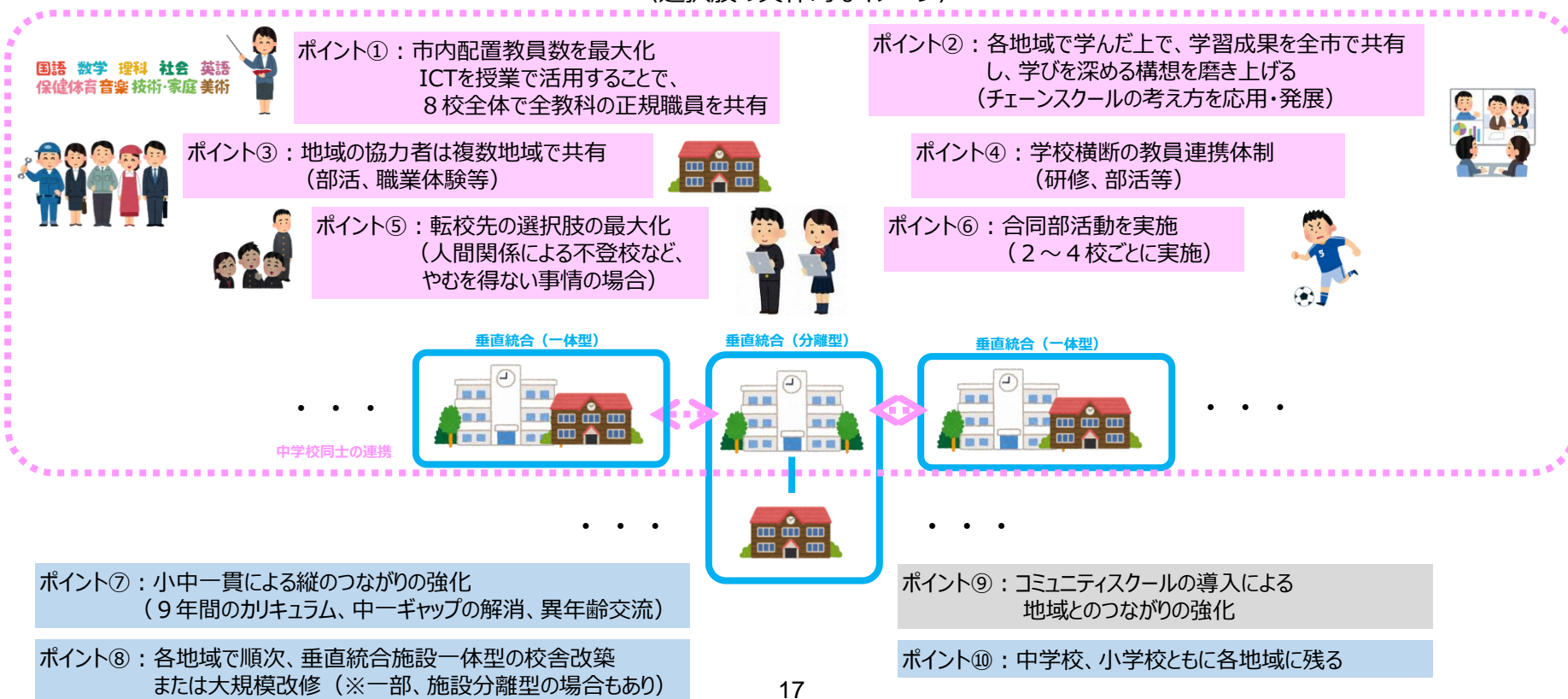
教員最大化
+ 中学校連携
+ 小中一貫

地域学習
+ 中学校連携

他校との
合同部活動

- ・学校数を維持し、市内に配置される教員数を最大化させ、中学校同士の間により、合同授業や教員研修等を行い、市全体の教育の質を向上させる
- ・9年間を通じた教育課程を編成し、安定的な教育環境を提供することで、中一ギャップ等の課題に対応する
- ・地域別の学びと、全市単位の学びを組み合わせ、郷土を愛し、多様な価値観や人間関係の中で未来を切り拓く人材を育成する
- ・合同部活動により、部活動の選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築し、他校の生徒との日常的な対面交流や多様な生徒が活躍できる場を提供する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



具体的な組み合わせ

	組み合わせ	備考
1-1		

•
•
•



(2) 水平統合案

教育環境の向上
の方向性

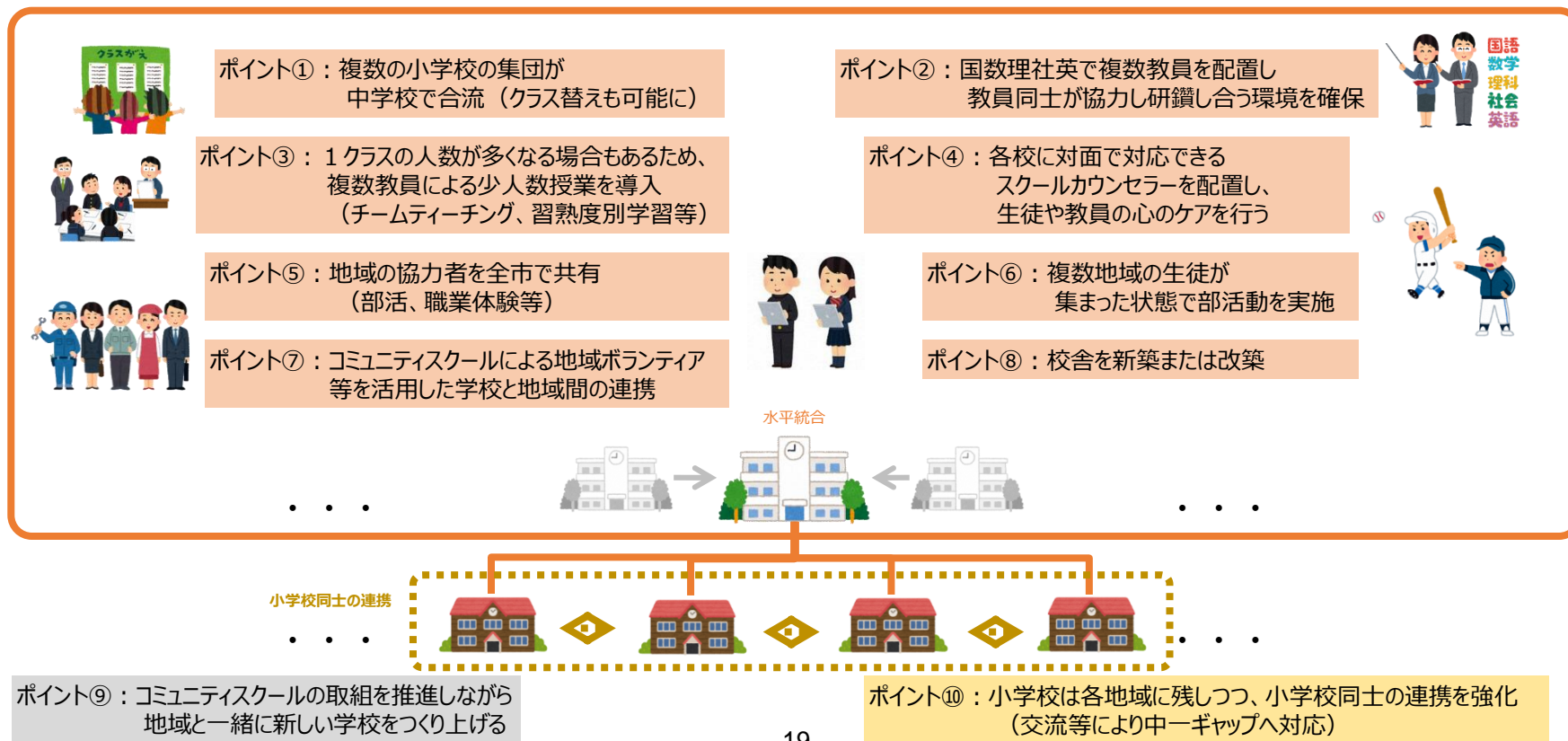
クラス替え可能な
学校規模
+
少人数指導の導入

コミュニティスクールによる
地域連携の構築

校内部活動の
充実

- ・クラス替えが可能な学校規模のなかで、新たな人間関係の形成や社会を生き抜く力を育成する
- ・市単補助教員等の集約により、「チームティーチング・習熟度別学習」等の少人数指導など、きめ細かい指導体制を構築する
- ・コミュニティスクールを活用し、地域との連携を図る
- ・地域住民がボランティア等で学校に関わる仕組みを全市単位で構築する
- ・同校内における部活動の選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築し、多様な生徒の活躍の場を提供する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



具体的な組み合わせ

	組み合わせ	備考
2-1		

•
•
•



(3) 組み合わせ案

教育環境の向上
の方向性

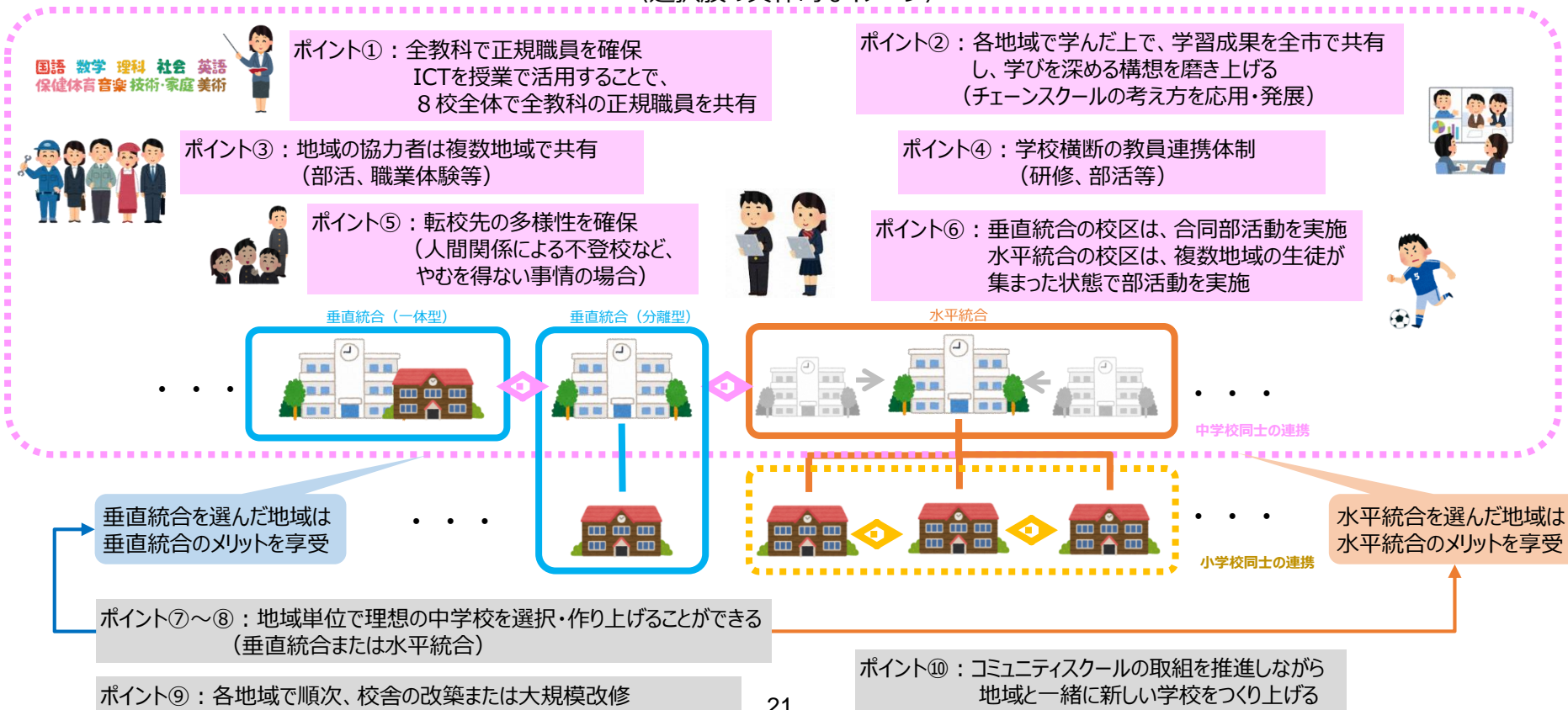
正規教員確保
+ 中学校連携
+ 地域で選択
(垂直・水平)

地域学習
+ 中学校連携

状況に合わせて
部活動を実施

- ・市全体で全教科の正規職員を確保しつつ、中学校同士の連携により、合同授業や教員研修等を行い、市全体の教育の質を向上させる
- ・地域ごとの価値観に合わせて、理想の中学校を選択・作り上げることができる (垂直統合または水平統合)
- ・地域別の学びと、全市単位の学びを組み合わせ、郷土を愛し、多様な価値観や人間関係の中で未来を切り拓く人材を育成する
- ・合同部活動、同校内における部活動の2つのパターンで選択肢を増やし、チーム編成可能な体制を構築する

〈選択肢の具体的なイメージ〉



具体的な組み合わせ

	組み合わせ	備考
3-1		

•
•
•



4. 今後に向けて

○北杜市立小中学校適正規模等審議会条例

平成19年3月26日
条例第5号

(設置)

第1条 北杜市立小学校及び中学校(以下「小中学校」という。)におけるより良い教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため、北杜市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の附属機関として、北杜市立小中学校適正規模等審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項について検討し、答申する。

- (1) 小中学校の適正規模に関すること。
- (2) 小中学校の適正配置に関すること。
- (3) 小中学校の通学区域に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内で組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識を有する者
- (2) 市代表区長
- (3) 小中学校PTAを代表する者
- (4) 小中学校校長会を代表する者
- (5) 公募
- (6) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、委員のうちから会長が指名する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 審議会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

北杜市立小中学校適正規模等審議会委員

(敬称略)

No	選出区分	役職	氏名	所属等
1	学識 (2名)	会長	清水 一彦	山梨大副学長・理事
2			日永 龍彦	山梨大教授、泉小CSアドバイザー
3	代表区長 (8名)		仲沢 仁	明野町区長会長
4			清水 精	須玉町区長会長
5			清水 永一	高根町区長会長
6			向井 伊三男	長坂町区長会長
7			平井 高志	大泉町区長会長
8			芝川 又和	小淵沢町区長会長
9			道村 幸男	白州町区長会長
10			小澤 浩	武川町区長会長
11	PTA 代表 (3名)		岡安 祐樹	PTA連合協議会会長
12			金谷 裕司	PTA連合協議会副会長
13			望月 智恵子	PTA連合協議会副会長
14	校長代表 (2名)		矢崎 茂男	市校長会長
15			小池 雅美	市校長会副会長
16	公募 (2名)		細川 英雄	
17		副会長	川村 めぐみ	
18	教育委員会 が必要 と認める 者 (3 名)		瀧澤 真	
19			高木 ひとみ	
20			三井 紀子	

(令和4年3月●日現在)

北杜教総第1337号
令和元年 8月 2日

北杜市立小中学校
適正規模等審議会 会長 様

北杜市教育委員会
教育長 堀内 正基

諮問書

北杜市立小中学校適正規模等審議会条例第2条の規定に基づき、
下記の事項について諮問します。

記

- 1 小中学校の適正規模に関すること。
- 2 小中学校の適正配置に関すること(小中一貫教育等を含む)。
- 3 小中学校の通学区域に関すること。

小学校ヒアリング調査結果

＜小学校ごとのヒアリング実施日程＞

1. 調査概要

- ・対象校：市内の小学校（9校）
- ・日程：右表のとおり（各校30～40分程度）
- ・方法：4～8名の児童へのグループヒアリング。「こんな中学校生活になればいいな」という理想を想像しながら、中学校生活において楽しみなこと・不安なことを聞いた。

学校	明野	須玉	高根東	高根西	長坂	泉	小淵沢	白州	武川
日程	5/14	5/17	5/31	5/13	5/21	5/14	6/9	6/8	7/8

2. 結果の総括

(1) 活動内容の変化についての意見

- ・「理想の中学校生活」を考えたとき、まずは「学校行事や部活等が本格的になる」という活動内容の変化についての意見が多くあった。
- ・意見の内容では、期待を示す意見が多くあった一方で、不安を示す声も一部にあった。

＞“本格的活動”への期待……やりがいが出る、できなかったことができるようになる、など
 ＞“本格的活動”への不安……難しくなる、厳しくなることなど

(2) 規模の変化についての意見

- ・(1)の意見に合わせて、こうした本格的活動ができる中学校生活を理想としたとき、生徒数が多くなる、校舎・設備が拡大するといった「規模の変化」についての意見も示された。※
- ・最も多かったのは、「生徒数が多くなること」への期待で、「生徒数が少ないことへの不安」をこの裏返しとみれば、意見の大半を占めるものであった。

- ・一方で、「生徒数が多くなること」への不安を示す意見もみられた。児童の志向（人が多く変化の多い環境を好むか、静かで変化の少ない環境を好むか）によってそれぞれ逆の意見が出るものとみられる。

※高根東・西小では、中学進学後ひとつになり生徒が増えるため、それを踏まえて生徒数が増えることへの意見が出やすい傾向があった。

9校それぞれでヒアリングした意見の多くは共通しているため、類似した意見を整理し、その具体的内容を下表のとおり整理する。（特に多かった意見を黄色で示した）

3. 具体的な意見

	活動内容の変化についての意見				規模の変化についての意見		
楽しみなこと、やってみたいこと	行事、生徒活動などへの期待 学園祭や体育祭などの学校行事が盛り上がりと思う 学年を越えて学校行事に取り組めるようになると思う 修学旅行で遠くまで行けるのが楽しみ 制服を着るのに憧れている／かっこいいと思う	部活等への期待 部活が本格的になるのが楽しみ 多人数での部活や遊びができるようになる もっと部活動に打ち込みたい 小学校にはなかった部活が楽しみ 部活の設備や用具が充実しているのに期待	自由・権限が広がることへの期待 自由が増える、やっていいこと／行っていい場所が増える スマホが持てる／LINEができる 集団登下校でなく自由な登下校ができるのが楽しみ	勉強への期待 物理など新しい教科の勉強をがんばりたい 仲の良かった先輩と再会できる	人間関係が広がることへの期待 クラス替えを体験したい／新しい友達をつくりたい 生徒が増えると、人間関係で揉めても居場所をみつげやすくなると思う 人間関係が広がって欲しい 生徒が増えると、生徒会の活動も盛り上がりと思う 人が多くなると、勉強も自分のペースでできるようになると思う 習い事やスポーツで知り合う程度だった他の地域の子と友達になりたい	校舎・設備の拡大への期待 今より広い校舎やグラウンドになるのが楽しみ 図書館が大きくなって読める本が増えるのが楽しみ 裏を返せば、人が増えて欲しいという期待になる	
気になること、不安なこと	勉強への不安 勉強が難しくなる／学力の差が大きくなるのが心配	部活への不安 部活の内容がハードになって、ついていけない心配	厳しくなることへの不安 校則や守るべきルールが厳しくなるのが不安 先輩後輩の上下関係が厳しくなるのが不安 先生が厳しそうで不安	通学への不安 家からの通学の距離が遠くなるのは気になる はじめて自転車通学をするのが不安 部活のあとに帰宅すると夜遅くなるのではないかと心配	人が増えることへの不安 人が増えると仲の良い友達と別々のクラスになるのが心配 人が増えると人間関係の問題も大きくなるのではないかと心配 他の小学校からきた子と仲良くできるか不安	校舎が広がることへの不安 校舎が大きくなると迷ってしまうのではと不安	人が少ないままであることへの不安 進学先の中学校にやりたい部活がないのが残念 班分け、チーム分けの数が足りないのは困る チームが組めずなくなった部活があり、今後も減ってしまうのが心配 クラス替えがないままなのがいやだ

中学校ヒアリング調査結果

<中学校ごとのヒアリング実施日程>

1. 調査概要

- ・対象校：市内の中学校（8校）※甲陵中除く
- ・日 程：右表のとおり（各校30～40分程度）
- ・方 法：4～8名の生徒へのグループヒアリング。趣旨説明の後、現状・垂直統合・水平統合の3枠を提示し、意見を聞いた。

学校	明野	須玉	高根	長坂	泉	小淵沢	白州	武川
日程	5/7	5/26	5/17	5/12	5/7	5/24	5/20	5/10

2. 結果の総括

(1) 総括

- ・提示した「現状」「垂直統合」「水平統合」それぞれのあり方について、いずれもプラス・マイナス両面で多くの意見が出ている。
- ・プラスかマイナスかは、生徒個人の志向に左右される側面が見受けられる。

- > 「垂直統合」を支持する志向……人数は少なくとも、地域に根差しながら、着実に深い人間関係をつくっていききたいというもの
 - > 「水平統合」を支持する志向……多様な人間関係のなかに飛び込み、成長や変化の機会を歓迎するというもの
- ※前者の志向は現状を肯定する意見に、後者の志向は現状に対する問題意識につながる傾向がある

(2) それぞれのあり方に対する意見のまとめ

現状	小中学校の垂直統合	中学校のみの水平統合
<ul style="list-style-type: none"> ・最も多かった意見は「仲が良い」「団結力がある」といった「深い人間関係が築ける」というもの。 ・一方で「人間関係の狭さ、固定化」「行事や部活が盛り上がらない」といったマイナス意見もほぼすべての学校からあがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスの意見では、「仲良い関係の維持」「下の子の面倒をみる機会」など、地に足をつけて人間関係をつくりたいというものが多。 ・マイナスの意見では、「人間関係の固定化がさらに進む」ことへの懸念がある。また、年齢差のある環境がストレスになるという意見もあげられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスの意見の多くは、「人間関係が広がる」「行事や部活が活性化する」「成長の機会が得られる」といった期待から出ている。 ・一方で、こうした環境が逆にストレスを生むというマイナス意見や地理的・心理的に「地域と生徒との距離が広がる」といった意見も多い。

3. 具体的な意見

8校それぞれでヒアリングした意見の多くは共通しているため、類似した意見を整理し、その具体的内容を下表のとおり整理する。（特に多かった意見を黄色で示した）

	現状	小中学校の垂直統合			中学校のみの水平統合			
良い点、期待する点	<ul style="list-style-type: none"> 深い人間関係 生徒同士の仲が良い クラスの団結力がある 一人ひとりと関わりが持てる 集中できる 活躍の機会が多い 一人ひとりに活躍できる機会がある きめ細かい教育 先生の目が行き届く 	<ul style="list-style-type: none"> 仲良い関係の維持 小学校からの友達ですと仲良く過ごせる 小中のギャップが減る 下の子の面倒をみる機会がある 年齢差を越えて上の子が下の子の面倒をみれる 中学生のリーダーシップを伸ばせる 地域らしさの維持 学校の伝統文化が維持できる 地域に根差した活動ができる 通学の利便性 親の送り迎えの負担が減る 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係が広がる 楽しく賑やかな雰囲気になる 新しい友人をつくれる 趣味のあう友人を見つけられる 新しい人間関係で自分が変わるチャンスができる 他の地域の友達と交流できる 行事や部活が活性化 部活や学校行事でできることの幅が広がる 部活で選べる種類が増える 部活のチームが強くなる 勉強も遊びも色々な発想やアイデアが出せる 成長の機会が得られる 切磋琢磨できる/成長する機会が得られる 社会に出ていく良い経験ができそう 高校ギャップが減る 誇れるものが増える 各地区の良さや伝統が集まり、誇れるものが増える 先生の数が 先生の数が増える いろんな先生に学べる機会ができる 					
問題点、心配な点	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の狭さ、固定化 クラス替えがないので同調圧力が強い 新しい出会いがない 他の中学校との交流があまりない 行事や部活が盛り上がらない 学校行事や部活が盛り上がらない 選べる部活が少ない 生徒数が少ないので部活チームなどを組みにくい 先生の固定化 学校にいる先生数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の固定化がさらに進む 人間関係でつまずくと変わる機会がない 人間関係が固定化され、転入生などがなじみにくい 先輩後輩のけじめが弱くなる 年齢差が大きいことによる負担 年齢差があると一緒に遊べない、ケガの心配がある 休み時間や下校時間が違うので騒がしくなる 教室や校庭などの使い方やルールが複雑になる 小さい子がたくさんいる環境が苦手な生徒もいる 進学先を選べない 中学校を選ぶことができないのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の問題が増える 知らない人との関係をつくるのはストレスになる 人間関係のトラブルが増えるかもしれない 別の地域の人たちと友人になりにくいのは 新しい友人関係をつくれるか心配 過剰な競争が生まれる 競争が激しくなる(勉強、部活などで) 活躍できる場が減るかも知れない 中学校同士の差が開くのではない 地域との距離が広がる 通学時間が長くなる 部活等の練習場所が遠くなる 学校のない日は友達との距離が遠くなる 個々の学校がもっていた伝統や文化が失われる 地域から子どもの声がなくなる 					